



春秋覇者の時代 (楚の荘王)

5月②のごあいさつ

山内公認会計士事務所

2023年5月11日(木)

楚は南方の雄国であり、成王の時代には一大王国をなし、中原の文化圏に対して南方独自の文化圏を形成していた。

周から与えられた爵位は子爵にすぎなかった。高い爵位を要求したが周室に拒否され、以来、楚は中原では周にしか許されない「王」を名乗るのである。

楚の成王から2代後の荘王(BC613~BC591 在位)は即位して3年の間、政令一つ発することなく日夜遊び呆けていた。しかも国中に、こう布令した。

「諫める者は例外なしに死刑に処す」。

これに対し伍挙が目通りして謎かけを言った。「丘の上の木に鳥がおります。3年の間、飛びもせず鳴きもしません。これはいかなる鳥でしょうか」、「3年飛ばずとも、ひとたび飛ばば天の極みに至るだろう。お前の言いたいことはわかっておる。もう下がるがよい」。王の遊びはいよいよ盛んになる。

今度は大夫の蘇従がまかり出た。「諫める者は死刑だ。知っておろうな」、「わが君の迷いを覚ますことが出来れば、この身が滅んでも本望であります」。

この時を限りに、荘王は遊びをピタリとやめ、政権の充実に取組んだ。まずは人事の刷新である。一挙に数百人を処分して、新人を登用し、伍挙、蘇従の二人に国政を委ねた。

この年、楚は庸を滅ぼし、宋を討伐して戦車50乗を捕獲した。その後、楚軍は洛陽南方地方の戎を討伐して、洛水のほとり、周都の郊外に出た。

周の定王は大夫王孫滿をよこし、荘王の遠征を慰労した。王孫滿と会見して、荘王は尋ねた。「音にきく周室の鼎とはどれほどの大きさ、重さがあるものかな？」

荘王は、陳の国を不法に奪い君主を名乗った夏微舒を諸侯を率いて討伐した。その時荘王は、「安心せよ。このたびの戦いは逆臣を討伐するだけだ」と言った。ところが討伐が終わると陳楚を一県にしてしまった。

群臣はこぞって祝賀する。だが申叔時だけは祝いの言葉を述べない。

荘王がわけを尋ねると「そもそも王は正義の名を以って討伐なさった筈です。ところが事が終われば、陳の領土をそっくりわが物にする。こんなことでは天下に号令できません。だから私はお祝い申し上げないのです」、「うむ、よく言ってくれた」。荘王は早速、陳の領土を返し、晋に逃れていた靈公の太子午を迎えて陳君の座につけた。かつて孔子はこの記録を読んで、楚の荘王とはなんと立派な人物だと、感嘆したという。